

南海トラフ地震における  
「地震動予測」及び「津波浸水想定」

令和8年3月

和歌山県



## (目次)

1 はじめに	1
2 想定地震	1
3 調査・公表項目	2
4 想定条件	2
5 「地震動予測」及び「津波浸水想定」見直しの結果概要	5
6 地震動予測	6
7 津波浸水想定	9

## 1 はじめに

本県では、「発生頻度の高い地震（東海・東南海・南海3連動地震）」及び「最大クラスの巨大地震（南海トラフ巨大地震）」の2つの地震を対象として、平成25年に「津波浸水想定」を、平成26年に「地震被害想定」をそれぞれ公表し、県・市町村でこれらの想定を踏まえハード・ソフト両面から防災・減災対策に取り組んできました。

これらの想定公表から約10年が経過したこと、また、令和7年3月に内閣府が「南海トラフ巨大地震の被害想定」を見直したことなどを踏まえ、地震・津波被害想定を見直すこととしました。

この見直しにあたっては、「和歌山県地震・津波被害想定検討委員会」を設置し、地震・津波防災対策の専門家から科学的知見に基づいた助言をいただいております。

今回、「地震動予測」と「津波浸水想定」を公表することになりましたが、最新の科学的知見や詳細な直近の地形データ等を反映させ、地震動と津波の浸水域及び到達時間等を推計することで、今後の県・市町村等による防災・減災対策の基礎資料として活用していきます。

この「地震動予測」と「津波浸水想定」を踏まえ、今後、公表予定の人的・物的被害などの「被害想定」により、被害規模を明らかにし、防災・減災対策に活用するとともに県民の皆様への防災対策への理解を深め、自助・共助の取組を推進していきます。

### <検討委員会メンバー>

専門分野	役職	氏名	備考
防災・減災・ 危機管理	京都大学 防災研究所 教授	まき のりお 牧 紀男	会長
防災工学	関西大学 社会安全学部 教授	おくむら よしひろ 奥村 与志弘	
防災工学 水工学	和歌山工業高等専門学校 環境都市工学科 教授	こいけ のぶあき 小池 信昭	
地震防災 地震学	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 地質調査総合センター活断層・火山研究部門 総括研究主幹	ししくら まさのぶ 宍倉 正展	
防災工学 災害社会学	兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科 准教授	まつかわ あんな 松川 杏寧	
防災心理学	京都大学 防災研究所 教授	やもり かつや 矢守 克也	

## 2 想定地震

### (1) 発生頻度の高い地震

約100年周期で発生する、頻度が高く、先ず対策が必要なもの

- ① 内閣府が平成15年に宝永地震、安政地震など実際に発生した地震を基に想定した、従来から本県が防災・減災対策の「想定地震動（震度）」「想定津波」としてきたもの

### (2) 最大クラスの巨大地震

発生頻度は極めて低いが、仮に発生すれば、被害が甚大なもの。対策が非常に困難。

- ① 内閣府が令和7年3月に公表した地震動・津波浸水想定を基に、地盤モデルや地形データ等を和歌山県独自の調査結果を用いて想定したもの。
- ② 震源モデルについては、平成25年及び平成26年に和歌山県が想定したものと同じ。津波波源モデルについては、内閣府が平成24年に想定したものと同じ。

### 3 調査・公表項目

#### (1) 地震動予測

- ① 震度分布

#### (2) 津波浸水想定

- ① 津波高
- ② 浸水面積
- ③ 津波到達時間（津波高別）

### 4 想定条件

#### (1) 地震動予測

##### ① 想定地震モデル

発生頻度の高い地震は震源域が静岡県から高知県に及ぶMw8.7の地震で、中央防災会議が示した平成15年モデルによる。

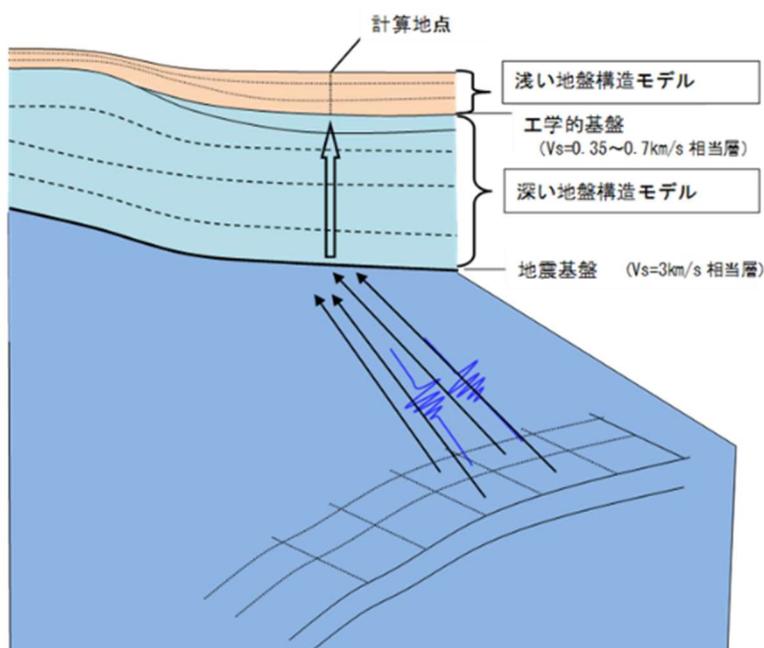
巨大地震は震源域が静岡県から宮崎県に及ぶMw9.1の地震で、内閣府が平成24年に示したモデルによる。内閣府は複数のケースを想定して地震・津波の波源モデルを設定しているが、そのうち県内にもっとも広く大きな災害を及ぼす可能性の高い、陸側ケースを用いた。

なお、上記は平成26年に報告した和歌山県地震被害想定調査と同じ想定地震の設定となる。

##### ② 予測手法の概要

震度計算においては、まず、作成した強震断層モデルより工学的基盤（S波速度で 0.35 ～ 0.7 km/s 相当の基盤）に伝わる波形を計算し、その計測震度を求める。そして、浅部地盤モデルより計算される浅部地盤での地震動の増幅度（震度の増分）を各メッシュにおいて適用し、地表の震度分布を算出する。

本調査においては、浅部地盤モデル、深部地盤モデルを更新し、また、波形を計算する際の乱数の取り扱いに新たな工夫を取り入れた。

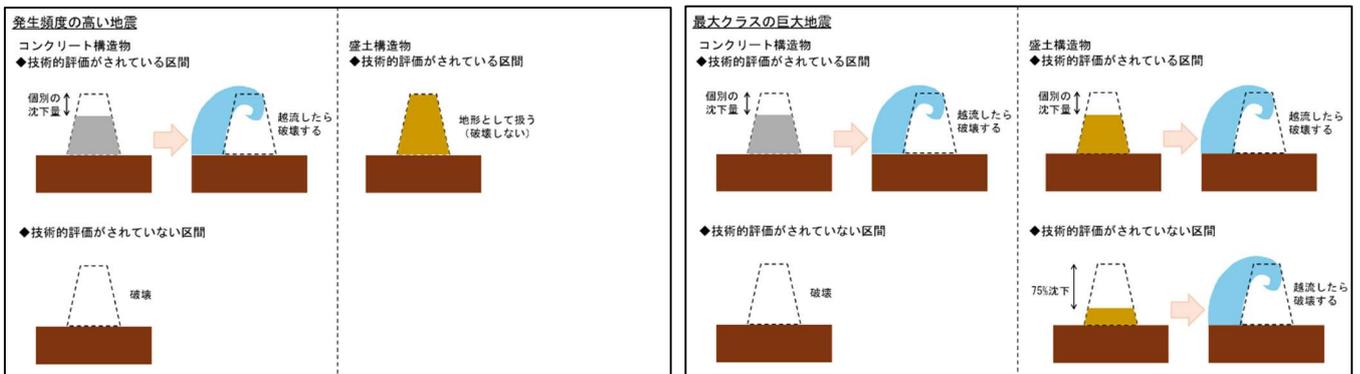


## (2) 津波浸水想定

### ① 計算条件の設定 (主なもの)

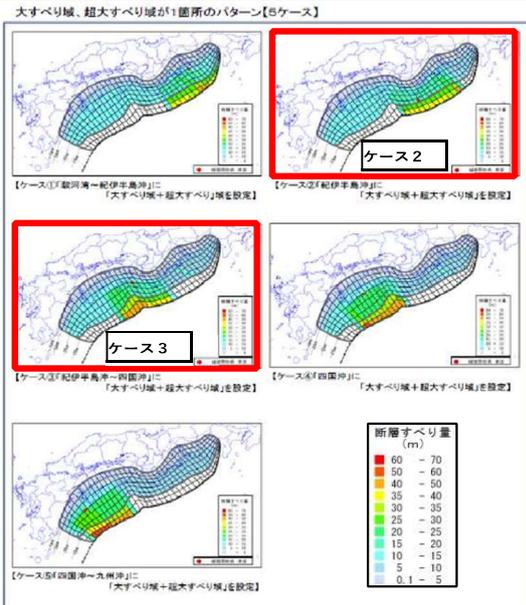
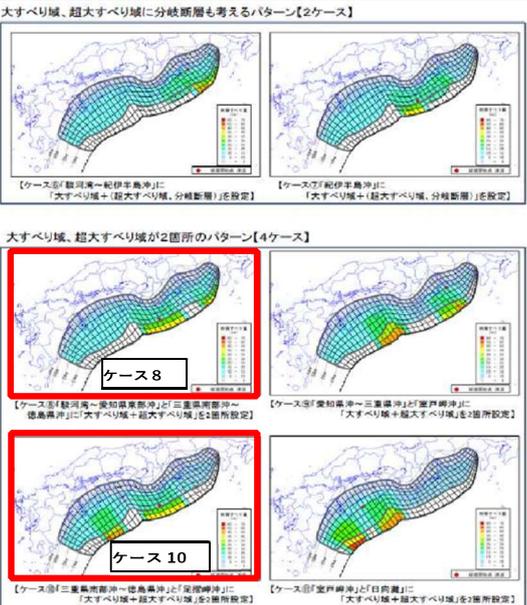
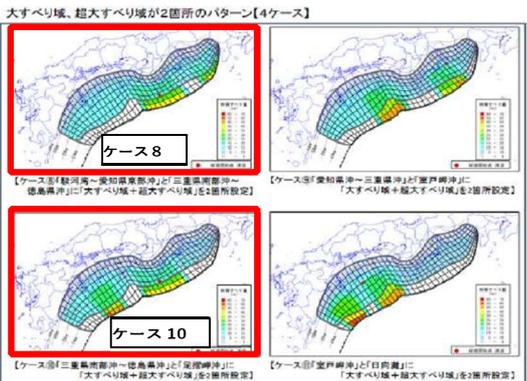
	発生頻度の高い地震	最大クラスの巨大地震
潮位条件	朔望平均満潮位 (※) T.P. +1.00m	朔望平均満潮位 (※) T.P. +1.00m
コンクリート 構造物 (護岸・防波堤等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆構造物の耐震性に関する技術的評価がされている区間は評価結果の沈下量を採用し、津波が越流し始めた時点で「破壊」とする。</li> <li>◆構造物の耐震性に関する技術的評価がされていない区間は地震動により「破壊」とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆構造物の耐震性に関する技術的評価がされている区間は評価結果の沈下量を採用し、津波が越流し始めた時点で「破壊」とする。</li> <li>◆構造物の耐震性に関する技術的評価がされていない区間は地震動により「破壊」とする。</li> </ul>
盛土構造物 (堤防)	◆地形データとして取り扱う (破壊しない)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆構造物の耐震性に関する技術的評価がされている区間は評価結果の沈下量を採用し、津波が越流し始めた時点で「破壊」とする。</li> <li>◆構造物の耐震性に関する技術的評価がされていない区間は地震動により地震前の25%の高さとし、津波が越流し始めた時点で「破壊」とする。</li> </ul>
道路・鉄道	◆地形データとして取り扱う (破壊しない)	
建築物	◆建物の代わりに津波が遡上する時の摩擦 (粗度) を設定	
地盤変動量	◆地盤の沈降及び隆起を考慮する。ただし、地盤が隆起する場合は、地盤変動量をゼロとする。	◆地盤の沈降を考慮する。

※朔望平均満潮位とは、朔 (新月) および望 (満月) の日から5日以内に現れる、各月の最高満潮面の平均値



② 選定した最大クラスの津波について

和歌山沿岸に最大クラスの津波をもたらすと想定される津波断層モデルとして、内閣府「南海トラフの巨大地震モデル検討会」公表の 11 モデルのうち、ケース 2、3、8、10 を選定。

対象津波	「南海トラフの巨大地震モデル検討会」 公表 (H24.8.29) による想定地震津波	
マグニチュード	Mw = 9.1	
使用モデル	南海トラフの巨大地震モデル検討会 (第二次報告) のモデル	
概要	説明	内閣府が東北地方太平洋沖地震を教訓とし、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの巨大な地震・津波として想定
	震源域	<p>大すべり域、超大すべり域が1箇所のパターン【6ケース】</p>  <p>大すべり域、超大すべり域に分岐断層も考えるパターン【2ケース】</p>  <p>大すべり域、超大すべり域が2箇所のパターン【4ケース】</p> 

## 5 「地震動予測」及び「津波浸水想定」見直しの結果概要

「地震動予測」及び「津波浸水想定」ともに最新の科学的知見や詳細な直近の地形データの更新等を行い、前回結果との比較を行いました。

### (1) 発生頻度の高い地震

#### ① 地震動予測

内陸部で震度5強の強い揺れが想定される。中部以南の一部の地区で震度7以上の非常に強い揺れが想定されることもある。

【最大震度】ボーリング情報等を追加し、地表付近の地盤構造モデルを更新したこと等により、那智勝浦町と太地町で階級が1上がり、上富田町で階級が1下がったが、それらの町も含めて県全域では大幅な変化はなかった。(P8参照)

#### ② 津波浸水想定

【最大津波高】地形データの更新等により、串本町と那智勝浦町で1m高くなった。(P11参照)

【浸水面積】地形データの更新等により、6市町で増加、5市町で減少し、県全体で減少(▲250ha)した。(P13参照)

- ・増加：有田市、御坊市、田辺市、白浜町、すさみ町、串本町
- ・減少：和歌山市、海南市、印南町、那智勝浦町、新宮市

【到達時間】計算精度の向上等により、第1波最大津波到達時間が串本町で3分遅くなり、和歌山市、印南町、田辺市で1分早くなった。(P15参照)

### (2) 最大クラスの巨大地震

#### ① 地震動予測

沿岸部の広い範囲で震度6強以上の強い揺れが想定される。一部の地域で、震度7の非常に強い揺れが想定されることもある。

【最大震度】ボーリング情報等を追加し、地表付近の地盤構造モデルを更新したこと等により、日高川町で階級が1上がり、かつらぎ町と九度山町で階級が1下がったが、それらの町も含めて県全域では大幅な変化はなかった。(P8参照)

#### ② 津波浸水想定

【最大津波高】地殻変動(隆起量)モデルの変更等により、すさみ町、串本町で1m高く、新宮市で1m低くなった。(P11参照)

【浸水面積】地形データの更新等により、8市町で増加、6市町で減少し、県全体で減少(▲300ha)した。(P13参照)

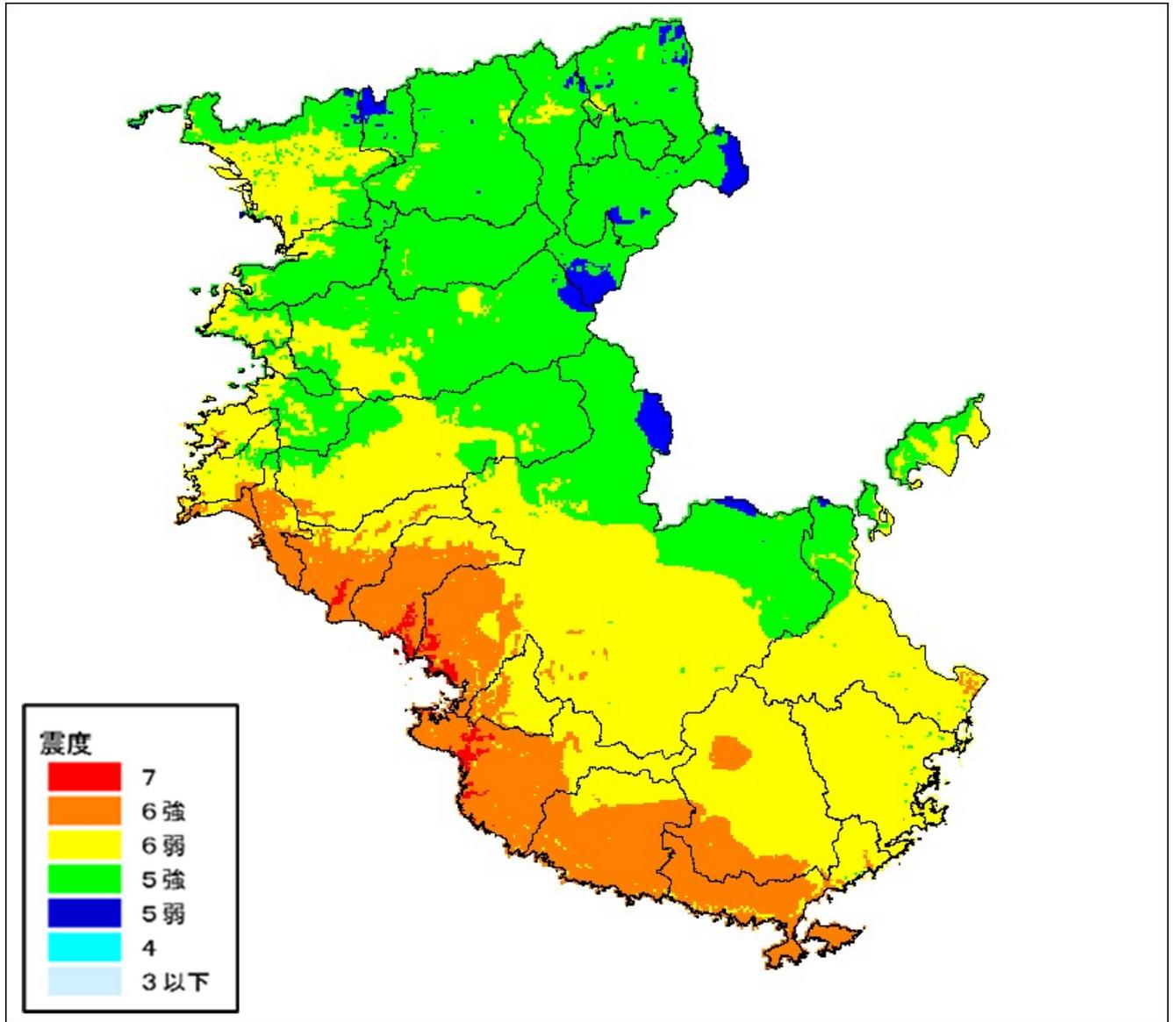
- ・増加：有田市、湯浅町、白浜町、すさみ町、串本町、古座川町、那智勝浦町、太地町
- ・減少：和歌山市、海南市、広川町、由良町、御坊市、新宮市

【到達時間】計算精度の向上等により、津波高1mの到達時間が那智勝浦町と太地町で1分、串本町で2分早くなった。(P15参照)

## 6 地震動予測

### 震度分布図

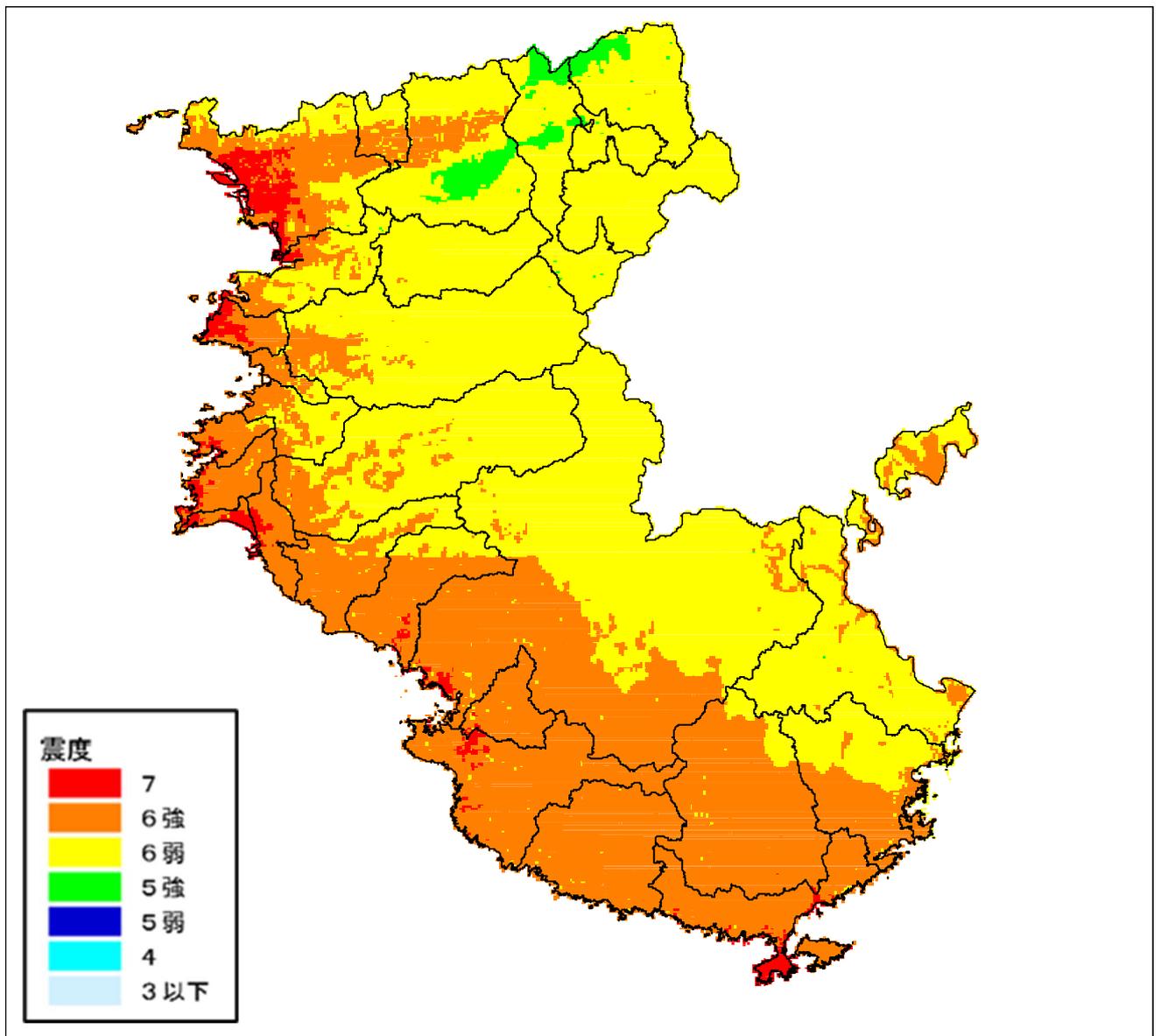
【発生頻度の高い地震】



※250m 四方のメッシュで震度を表している。

## 震度分布図

【最大クラスの巨大地震】



※250m 四方のメッシュで震度を表している。

## 最大震度分布の比較

市町村内に1地点（250m 四方のメッシュ）でも含まれる最大震度を、当該市町村の震度として表記しており、当該市町村の全ての地域の震度を表しているわけではありません。

詳しくは震度分布図をご覧ください。（P6、P7 参照）

市町村名	発生頻度の高い地震		最大クラスの巨大地震	
	R8	H26	R8	H26
和歌山市	震度6弱	震度6弱	震度7	震度7
海南市	震度6弱	震度6弱	震度7	震度7
紀美野町	震度6弱	震度6弱	震度6強	震度6強
紀の川市	震度6弱	震度6弱	震度6強	震度6強
岩出市	震度6弱	震度6弱	震度6強	震度6強
橋本市	震度6弱	震度6弱	震度6強	震度6強
かつらぎ町	震度6弱	震度6弱	<u>震度6弱</u>	震度6強
九度山町	震度6弱	震度6弱	<u>震度6弱</u>	震度6強
高野町	震度5強	震度5強	震度6弱	震度6弱
有田市	震度6弱	震度6弱	震度7	震度7
湯浅町	震度6弱	震度6弱	震度6強	震度6強
広川町	震度6弱	震度6弱	震度7	震度7
有田川町	震度6弱	震度6弱	震度6強	震度6強
御坊市	震度6強	震度6強	震度7	震度7
美浜町	震度6強	震度6強	震度7	震度7
日高町	震度6強	震度6強	震度7	震度7
由良町	震度6強	震度6強	震度7	震度7
印南町	震度7	震度7	震度6強	震度6強
みなべ町	震度7	震度7	震度7	震度7
日高川町	震度6強	震度6強	<u>震度7</u>	震度6強
田辺市	震度7	震度7	震度7	震度7
白浜町	震度7	震度7	震度7	震度7
上富田町	<u>震度6強</u>	震度7	震度7	震度7
すさみ町	震度6強	震度6強	震度7	震度7
新宮市	震度6強	震度6強	震度6強	震度6強
那智勝浦町	<u>震度6強</u>	震度6弱	震度6強	震度6強
太地町	<u>震度6強</u>	震度6弱	震度6強	震度6強
古座川町	震度6強	震度6強	震度7	震度7
北山村	震度6弱	震度6弱	震度6強	震度6強
串本町	震度7	震度7	震度7	震度7

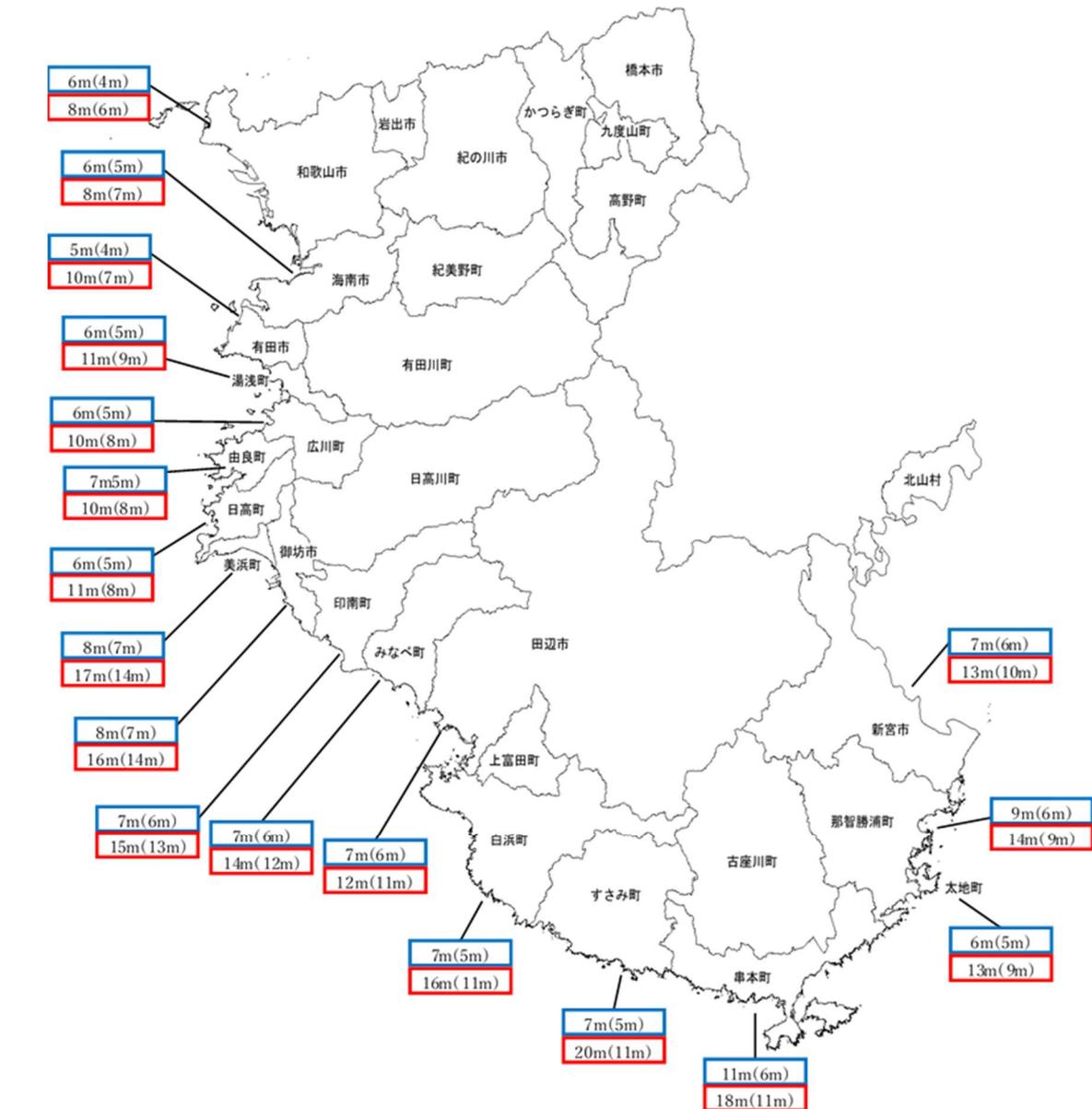
※前回から変更のあった市町村には下線を引いている。

## 7 津波浸水想定

### 津波高の分布（最大津波高・平均津波高）

最大津波高とは、和歌山県全域の海岸線から沖合約 30m 地点における、当該市町内の最大の高さを示しており、当該市町内の全ての沿岸部を表しているわけではありません。

平均津波高とは、和歌山県全域の海岸線から沖合約 30m 地点における、当該市町内の平均の高さを示しています。



※いずれも小数点以下切り上げ

## 津波高の比較

### (最大津波高・平均津波高)

(単位：m)

市町名	発生頻度の高い地震				最大クラスの巨大地震				比較				
	R8		H25		R8		H25		発生頻度の高い地震 (R8-H25)		最大クラスの巨大地震 (R8-H25)		
	最大 ①	平均 ②	最大 ③	平均 ④	最大 ⑤	平均 ⑥	最大 ⑦	平均 ⑧	最大 ①-③	平均 ②-④	最大 ⑤-⑦	平均 ⑥-⑧	
1	和歌山市	6	4	6	4	8	6	8	6	0	0	0	0
2	海南市	6	5	6	5	8	7	8	6	0	0	0	1
3	有田市	5	4	5	4	10	7	10	7	0	0	0	0
4	湯浅町	6	5	6	5	11	9	11	9	0	0	0	0
5	広川町	6	5	6	5	10	8	10	8	0	0	0	0
6	由良町	7	5	7	5	10	8	10	8	0	0	0	0
7	日高町	6	5	6	5	11	8	11	8	0	0	0	0
8	美浜町	8	7	8	7	17	14	17	14	0	0	0	0
9	御坊市	8	7	8	7	16	14	16	14	0	0	0	0
10	印南町	7	6	7	6	15	13	15	13	0	0	0	0
11	みなべ町	7	6	7	6	14	12	14	12	0	0	0	0
12	田辺市	7	6	7	6	12	11	12	11	0	0	0	0
13	白浜町	7	5	7	5	16	11	16	10	0	0	0	1
14	すさみ町	7	5	7	5	20	11	19	10	0	0	1	1
15	串本町	11	6	10	5	18	11	17	10	1	1	1	1
16	那智勝浦町	9	6	8	6	14	9	14	9	1	0	0	0
17	太地町	6	5	6	5	13	9	13	8	0	0	0	1
18	新宮市	7	6	7	6	13	10	14	10	0	0	▲ 1	0

※上記津波高について、小数点以下は切り上げている。

※最大津波高とは、和歌山県全域の海岸線から沖合約30m地点における、当該市町内の最大の高さを示している。

※平均津波高とは、和歌山県全域の海岸線から沖合約30m地点における、当該市町内の平均の高さを示している。

## 津波高比較結果の要因分析

(単位：m)

市町名		発生頻度の高い地震 (R8-H25)		<考えられる主な要因>	最大クラスの巨大地震 (R8-H25)		<考えられる主な要因>
		最大 ①-③	平均 ②-④		最大 ⑤-⑦	平均 ⑥-⑧	
1	和歌山市	0	0	-	0	0	-
2	海南市	0	0	-	0	1	計算精度向上のため。
3	有田市	0	0	-	0	0	-
4	湯浅町	0	0	-	0	0	-
5	広川町	0	0	-	0	0	-
6	由良町	0	0	-	0	0	-
7	日高町	0	0	-	0	0	-
8	美浜町	0	0	-	0	0	-
9	御坊市	0	0	-	0	0	-
10	印南町	0	0	-	0	0	-
11	みなべ町	0	0	-	0	0	-
12	田辺市	0	0	-	0	0	-
13	白浜町	0	0	-	0	1	端数処理のため
14	すさみ町	0	0	-	1	1	地殻変動のモデルを変更したため。
15	串本町	1	1	計算精度向上のため。	1	1	地殻変動のモデルを変更したため。
16	那智勝浦町	1	0	地形データを更新したため。	0	0	-
17	太地町	0	0	-	0	1	地殻変動のモデルを変更したため。
18	新宮市	0	0	-	▲ 1	0	地形データを更新したため。

※上記津波高について、小数点以下は切り上げている。

## 浸水面積の比較

(単位：ha)

市町名	面積 (A)	発生頻度の高い地震				最大クラスの巨大地震				比較				
		R8		H25		R8		H25		発生頻度の高い地震 (R8-H25)		最大クラスの巨大地震 (R8-H25)		
		浸水面積 (B)	割合 (B/A)	浸水面積 (C)	割合 (C/A)	浸水面積 (D)	割合 (D/A)	浸水面積 (E)	割合 (E/A)	増減面積 (B-C)	増減比率 (B/C)	増減面積 (D-E)	増減比率 (D/E)	
1	和歌山市	20,885	1,310	6.3%	1,540	7.4%	3,330	15.9%	3,660	17.5%	▲ 230	0.9倍	▲ 330	0.9倍
2	海南市	10,106	470	4.7%	530	5.2%	660	6.5%	670	6.6%	▲ 60	0.9倍	▲ 10	1.0倍
3	有田市	3,683	110	3%	100	2.7%	460	12.5%	440	11.9%	10	1.1倍	20	1.0倍
4	湯浅町	2,080	100	4.8%	100	4.8%	200	9.6%	180	8.7%	0	1.0倍	20	1.1倍
5	広川町	6,535	160	2.4%	160	2.4%	290	4.4%	340	5.2%	0	1.0倍	▲ 50	0.9倍
6	由良町	3,093	150	4.8%	150	4.8%	220	7.1%	230	7.4%	0	1.0倍	▲ 10	1.0倍
7	日高町	4,621	100	2.2%	100	2.2%	280	6.1%	280	6.1%	0	1.0倍	0	1.0倍
8	美浜町	1,277	220	17.2%	220	17.2%	590	46.2%	590	46.2%	0	1.0倍	0	1.0倍
9	御坊市	4,391	280	6.4%	270	6.1%	950	21.6%	970	22.1%	10	1.0倍	▲ 20	1.0倍
10	日高川町	33,159	-	-	-	-	*	-	*	-	-	-	*	-
11	印南町	11,362	80	0.7%	90	0.8%	280	2.5%	280	2.5%	▲ 10	0.9倍	0	1.0倍
12	みなべ町	12,028	80	0.7%	80	0.7%	450	3.7%	450	3.7%	0	1.0倍	0	1.0倍
13	田辺市	102,689	420	0.4%	400	0.4%	910	0.9%	910	0.9%	20	1.1倍	0	1.0倍
14	白浜町	20,099	360	1.8%	350	1.7%	970	4.8%	960	4.8%	10	1.0倍	10	1.0倍
15	すさみ町	17,445	160	0.9%	150	0.9%	340	1.9%	320	1.8%	10	1.1倍	20	1.1倍
16	串本町	13,567	780	5.7%	750	5.5%	1,220	9%	1,170	8.6%	30	1.0倍	50	1.0倍
17	古座川町	29,423	10	0%	*	-	20	0.1%	10	0%	*	-	10	2.0倍
18	那智勝浦町	18,330	440	2.4%	480	2.6%	710	3.9%	690	3.8%	▲ 40	0.9倍	20	1.0倍
19	太地町	581	90	15.5%	90	15.5%	140	24.1%	130	22.4%	0	1.0倍	10	1.1倍
20	新宮市	25,523	100	0.4%	110	0.4%	290	1.1%	330	1.3%	▲ 10	0.9倍	▲ 40	0.9倍
合計 (沿岸20市町)		340,877	5,420	1.6%	5,670	1.7%	12,310	3.6%	12,610	3.7%	▲ 250	1.0倍	▲ 300	1.0倍
合計 (県内30市町村)		472,466	5,420	1.1%	5,670	1.2%	12,310	2.6%	12,610	2.7%	▲ 250	1.0倍	▲ 300	1.0倍

※浸水深1cm以上の浸水面積を示している。

※ - : 浸水なし

※ \* : 10ha未満

※10以上15未満を10、15以上24未満を20と表示。

※河川部分等を除いた陸域部の浸水面積。

※四捨五入の関係で合計の面積と合わないことがある。

## 浸水面積比較結果の要因分析

(単位：ha)

市町名		発生頻度の高い地震 (R8-H25)		<考えられる主な要因>	最大クラスの巨大地震 (R8-H25)		<考えられる主な要因>
		増減面積 (B-C)	増減比率 (B/C)		増減面積 (D-E)	増減比率 (D/E)	
1	和歌山市	▲ 230	0.9倍	地形データを更新したため。	▲ 330	0.9倍	地形データを更新したため。
2	海南市	▲ 60	0.9倍	地形データを更新したため。	▲ 10	1.0倍	地形データを更新したため。
3	有田市	10	1.1倍	地形データを更新したため。	20	1.0倍	地形データを更新したため。
4	湯浅町	0	1.0倍	-	20	1.1倍	地形データを更新したため。
5	広川町	0	1.0倍	-	▲ 50	0.9倍	地形データを更新したため。
6	由良町	0	1.0倍	-	▲ 10	1.0倍	地形データを更新したため。
7	日高町	0	1.0倍	-	0	1.0倍	-
8	美浜町	0	1.0倍	-	0	1.0倍	-
9	御坊市	10	1.0倍	地形データを更新したため。	▲ 20	1.0倍	地形データを更新したため。
10	日高川町	-	-	-	*	-	-
11	印南町	▲ 10	0.9倍	地形データを更新したため。	0	1.0倍	-
12	みなべ町	0	1.0倍	-	0	1.0倍	-
13	田辺市	20	1.1倍	地形データを更新したため。	0	1.0倍	-
14	白浜町	10	1.0倍	地形データを更新したため。埋立地が増設されたため。	10	1.0倍	地形データを更新したため。埋立地が増設されたため。
15	すさみ町	10	1.1倍	地形データを更新したため。	20	1.1倍	地殻変動のモデルを変更したため。
16	串本町	30	1.0倍	地形データを更新したため。	50	1.0倍	地殻変動のモデルを変更したため。
17	古座川町	*	-	-	10	2.0倍	地殻変動のモデルを変更したため。
18	那智勝浦町	▲ 40	0.9倍	地形データを更新したため。	20	1.0倍	地殻変動のモデルを変更したため。
19	太地町	0	1.0倍	-	10	1.1倍	地殻変動のモデルを変更したため。
20	新宮市	▲ 10	0.9倍	地形データを更新したため。	▲ 40	0.9倍	地形データを更新したため。

※上記数字について、小数点以下は切り上げている。

※ \* : 10ha未満

## 津波到達時間の比較

(単位：分)

市町名		発生頻度の高い地震		最大クラスの巨大地震								比較				
		R8	H25	R8				H25				発生頻度の高い地震 (R8-H25)	最大クラスの巨大地震 (R8-H25)			
		第1波 最大津波 ①	第1波 最大津波 ②	津波高 +1m ③	津波高 +3m ④	津波高 +5m ⑤	津波高 +10m ⑥	津波高 +1m ⑦	津波高 +3m ⑧	津波高 +5m ⑨	津波高 +10m ⑩		第1波 最大津波 ①-②	津波高 +1m ③-⑦	津波高 +3m ④-⑧	津波高 +5m ⑤-⑨
1	和歌山市	52	53	45	50	53	-	40	50	53	-	▲ 1	5	0	0	-
2	海南市	47	47	39	47	54	-	39	47	54	-	0	0	0	0	-
3	有田市	41	41	33	37	42	-	33	37	42	-	0	0	0	0	-
4	湯浅町	44	44	35	37	41	-	35	37	41	-	0	0	0	0	-
5	広川町	43	43	33	36	41	-	33	36	41	-	0	0	0	0	-
6	由良町	35	35	24	27	33	-	24	27	33	-	0	0	0	0	-
7	日高町	28	28	16	18	26	-	16	18	26	-	0	0	0	0	-
8	美浜町	27	27	16	18	20	27	16	18	20	27	0	0	0	0	0
9	御坊市	24	24	13	16	17	25	13	17	17	25	0	0	▲ 1	0	0
10	印南町	23	24	11	13	15	23	11	13	15	24	▲ 1	0	0	0	▲ 1
11	みなべ町	23	23	11	14	15	24	11	14	15	24	0	0	0	0	0
12	田辺市	24	25	12	15	16	24	12	15	16	24	▲ 1	0	0	0	0
13	白浜町	12	12	3	5	6	14	3	5	6	14	0	0	0	0	0
14	すさみ町	10	10	3	4	5	15	3	4	5	15	0	0	0	0	0
15	串本町	8	5	1	2	2	3	3	3	3	3	3	▲ 2	▲ 1	▲ 1	0
16	那智勝浦町	10	10	2	3	4	4	3	3	4	4	0	▲ 1	0	0	0
17	太地町	7	7	2	2	3	4	3	3	3	4	0	▲ 1	▲ 1	0	0
18	新宮市	11	11	5	5	6	28	5	5	6	28	0	0	0	0	0

※上記到達時間について、秒単位で切り捨てている。

※津波到達時間とは、和歌山県全域の海岸線から沖合約30m地点における、当該市町村内の津波高別の最短の到達地点の時間を示している。

## 津波到達時間比較結果の要因分析

(単位：分)

市町名	発生頻度の高い地震 (R8-H25)	<考えられる主な要因>	最大クラスの巨大地震 (R8-H25)				<考えられる主な要因>	
	第1波 最大津波 ①-②		津波高 +1m ③-⑦	津波高 +3m ④-⑧	津波高 +5m ⑤-⑨	津波高 +10m ⑥-⑩		
1	和歌山市	▲1	端数処理のため	5	0	0	-	計算精度向上のため。
2	海南市	0	-	0	0	0	-	-
3	有田市	0	-	0	0	0	-	-
4	湯浅町	0	-	0	0	0	-	-
5	広川町	0	-	0	0	0	-	-
6	由良町	0	-	0	0	0	-	-
7	日高町	0	-	0	0	0	-	-
8	美浜町	0	-	0	0	0	0	-
9	御坊市	0	-	0	▲1	0	0	端数処理のため
10	印南町	▲1	端数処理のため	0	0	0	▲1	端数処理のため
11	みなべ町	0	-	0	0	0	0	-
12	田辺市	▲1	端数処理のため	0	0	0	0	-
13	白浜町	0	-	0	0	0	0	-
14	すさみ町	0	-	0	0	0	0	-
15	串本町	3	計算精度向上のため。	▲2	▲1	▲1	0	計算精度向上のため。
16	那智勝浦町	0	-	▲1	0	0	0	計算精度向上のため。
17	太地町	0	-	▲1	▲1	0	0	計算精度向上のため。
18	新宮市	0	-	0	0	0	0	-

### ※ 最大クラスの巨大地震における串本町の津波到達時間について

串本町での最短の津波到達地点は紀伊大島（串本町榎野）の先端部であり、1分と想定しますが、串本町の全ての沿岸部が1分で到達するわけではありません。なお、串本町市街地における津波到達時間は5分です。(図1)

津波到達時間は、当該市町の全ての沿岸部を表しているわけではありません。必要以上に恐れることなく、これまで通り揺れを感じたら直ちに避難場所等へ避難するなど、早期避難の徹底をお願いします。

(図1)

